

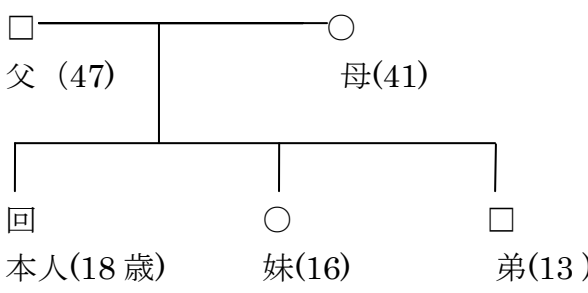
『地域から和泉の里に入所されてからの支援』

『事例の概要』

地域で暮らしていたTさんが和泉の里に入所し、見通しの持てる生活の中で穏やかに過ごしてもらえるように支援した事例。

重度の精神遅滞であり、中学生になったころから暴力行為が出現。次第に家族もそれらをコントロールできなくなり、自宅に戻れず数箇所の短期入所利用を継続、和泉の里への短期利用もされ、平成26年4月より長期の短期利用を経て、平成26年8月1日和泉の里へ入所。お茶等の要求が激しく、要求が通らないと興奮したように叫び、他害行為が頻繁に見られた。見通しが持てない場面を極力整理し、ご本人に分かる形でお伝えし他害行為や問題行動が減るようになる支援に取り組んでいる。

『フェイスシート』 ご本人の状況

年齢	18歳	性別	女性
障害状況	① 主な障害 重度精神遅滞・自閉症 ② 障害の起因 ③ 現在の障害の状況 重度精神発達遅滞・自閉症		
家族関係	[家族構成]  <p>回 本人(18歳) 妹(16) 弟(13)</p> [家族との関係] 家族に対し暴力行為が見られコントロールできなくなる。弟との関係悪化と両親とも精神的に体調を崩され和泉の里に入所になる。入所後は数回、母親と外出に出られているが兄弟とは面会はしていない。		

<p>主たる収入の状況</p>	<p>[本人] 障害基礎年金(1級) 平成26年度 966.000(年間) 80.500(月額)</p>
<p>居住の環境</p>	<p>和泉の里にて4人部屋で共有 ご自分のテレビがあったがラックを倒し、テレビを床に落とされ破損 その後は設置しておらず、CDデッキを結束バンドで固定して設置。</p>
<p>福祉サービス</p>	<p>・障害者支援施設 和泉の里 施設入所支援、生活介護</p>
<p>就労状況</p>	<p>就労はしていない</p>
<p>地域の特性</p>	<p>主としてなし</p>
<p>支援把握の経緯</p>	<p>数箇所の短期利用を利用して、和泉の里の短期利用もされていた。 平成26年4月より長期短期利用を経て、平成26年8月1日和泉の里へ入所となる。 お茶等の要求が激しく、要求が通らないと興奮したように叫び、他害行為が頻繁に見られた為、サービス管理責任者や女性職員等の話し合いを行い、穏やかに過ごしていけるように支援の模索を始めるようになった。</p>
<p>長期目標</p>	<p>○ 和泉の里でご本人が安心して暮らしていけるように支援していく。 ○ なるべく近い将来、ご家族が安心して一緒に過ごすことが出来る時間が持てるよう、関係諸機関とも連携し支援していく。</p>

支援の過程

第1段階	視覚的刺激をなくす
支援の目標	視覚的刺激をなくし、気になることを取り除く。
支援の経過	
<p>① 支援の内容</p> <ul style="list-style-type: none">お茶やおやつ、CD、広告等、支援室内のものが気になる、欲しくなる。待つことが出来ない。お茶や欲しいものの要求が続き、無理やり支援室に押し入る、要求が通らないと他害行為にいたる為、支援室のカーテンを閉め中が見えないようにし、刺激になるものをなるべく減らす対応した。	
<p>② 支援の効果</p> <ul style="list-style-type: none">支援室に押し入ることがなくなり、ドアの前で待てるようになった。	
<p>③ 支援を行う中での課題</p> <p>[解決された課題]</p> <ul style="list-style-type: none">支援室に押し入ることがなくなり、ドアの前で待てるようになった。 <p>[解決されなかった課題]</p> <ul style="list-style-type: none">ドアの前で待てるようになったがお茶等の要求は続くことが多く、興奮し他害行為にいたることは相変わらず見受けられた。	

第2段階	スキュータープロットを実施し、不穏になる時間帯、原因を追究
支援の目標	統計を元に不穏になる時間帯や原因を調べる。
支援の経過	
<p>① 支援の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援者チーム全体でスキュータープロットというツールを利用し、激しい要求と他害行為が見られた時間帯をチェックし統計をとった。 <p>② 支援の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 入浴がある日とない日、活動に行く日と行かない日が分からない。活動がない日や活動後、夕食前の時間に余裕がある時、暇な時、手持ち無沙汰な時、お腹がすいた時に要求が続き、興奮が始まることがわかった。 <p>③ 支援を行う中での課題</p> <p>[解決された課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 不穏になる時間帯、原因が分かったので、興奮する時間帯等できるだけスタッフの層を厚く出来るようにしたり、手持ち無沙汰な時間を好きな猫や玩具のDVD等興味のあることに置き換えたら問題行動が減った。 <p>[解決されなかった課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 不穏になる時間帯、原因が分かったので、激しい要求が見られた時に一緒に散歩に行ったり、コーラを買いに行く等試してみたが、コーラを買いに行くという要求に変わったり、人手が少ないときには対応できなかった。 	

第3段階	見通しが持てるよう視覚的に伝え、手持ち無沙汰な時間の構造化に取り組む
支援の目標	CDや好きなDVDの時間を作り、スケジュールをうめて暇な(余裕のある)時間を減らし、要求が続き興奮する前に工夫し支援する。
支援の経過	
<p>① 支援の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真カードで1日のスケジュールを作り、支援室の窓に設置、時計を横に置き時間と一緒に視覚的に伝えるように努めた。余裕のある時間には好きなCDやDVD、広告、塗り絵等、出来るだけ一人で取り組めるものを使い時間を埋めるよう支援した。 <p>② 支援の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入浴や活動がない日に入浴に行く、活動に行くとは殆ど見受けられなくなった。 <p>③ 支援を行う中での課題</p> <p>[解決された課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1日のスケジュールを作ったことで1日の見通しが持てるようになった。スケジュールの変更も比較的スムーズに受け入れられるようになった。時間を埋める活動として塗り絵はあまり興味を示さなかったがCD、DVD、広告は効果的であった。 <p>[解決されなかった課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広告を見る際は、支援員に広告の商品を指差しながらオウム返しを要求する、DVDやCDを流している時にも支援員に対しオウム返しを要求しに来られ、一人で取りくむよりは支援員と一緒に取り組むことが多く、人手がなく対応できない時やオウム返しを長く繰り返していくことで次第に興奮し始め、他害行為につながるが多々見受けられた。 	

第4段階	ご本人とのコミュニケーションを見直す
支援の目標	ご本人の希望するオウム返しの要求を長く繰り返すことで、興奮し始め不穏になり他害等につながった為、距離を保ちながら静観し傾向を見る。
支援の経過	
<p>① 支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まではご本人の要求するオウム返しや指差し等の関わりを納得されるまで繰り返しながら対応してきたが、要求がエスカレートし不穏につながることや支援員が付き添えない時に興奮することが多々見受けられた。以前不穏になられた際、他のご利用者の食事介助のためご本人が要求する関わりを持つことが出来ない事があった。他のご利用者には他害行為の対象にならない様に居室に避難していただき、暫く静観して様子を見ることにしたところ、20分ほどで落ち着かれ居室に戻っていかれた。別の日にも試してみると効果が見られた為、統一して必要以上の関わりは持たず、オウム返しはしないようにし距離を保ち、静観し様子を見て毎回記録を取りながら経過観察を行っている。 <p>② 支援の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 距離を保つことで支援員にこだわることがなくなり、要求が減り興奮することが減少したように見受けられる。また支援員が付き添うことなく広告を見たり、CDを聞くことが出来るようになり、余裕のある時間や手持ち無沙汰な時間を一人で過ごせるようになった為、支援員が付き添えなくて興奮することもなくなった。 <p>③ 支援を行う中での課題</p> <p>[解決された課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 興奮する回数が減少傾向である。余裕のある時間を一人で集中して取り組めるようになった。 <p>[解決されなかった課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 記録をとり始めて3ヶ月程なので、どのような理由や原因があるのか対応が正しいのかはまだ分からない。ご本人にとってオウム返しをする意味は何なのか等、半年を目標に記録をとり傾向を見ていく予定である。 	

第5段階	偏食について取り組む
支援の目標	健康管理
支援の経過	
<p>① 支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎食ご本人が食べたものを献立表にチェックし、食べられるものは何か、何が好きなのかを調べた。また医務と連携し支持を仰ぎながら足りない分の栄養を補えるよう牛乳やエンシュア等を摂って頂く様に対応した。 <p>② 支援の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジャム、菓子パン、牛乳は食べる。クリームスープ、マカロニ等は好きである。ご飯はふりかけがついた時はふりかけをかけ全量召し上がられることがわかった。 <p>③ 支援を行う中での課題</p> <p>[解決された課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふりかけご飯の時はご飯を召し上がられていたので、毎食ふりかけをつけることで以前よりはご飯を召し上がられるようになった。 ・ <p>[解決されなかった課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暫くはふりかけご飯で全量召し上がられていたが、ふりかけの部分しか召し上がられないようになった。ご本人のこだわりが変わるのか、飽きたのか分からないが現在はふりかけと佃煮を使って支援員が混ぜる、ご本人でふりかけご飯を作ってもらう等、試し記録をとりながら様子観察を行っている。 	

事例の評価と今後の課題について

(1) 支援目標の達成度

・ 見通しが持てない場面を極力整理し、ご本人に分かる形でお伝えしたこと、手持ち無沙汰な時間を埋めることで激しい要求がなくなり、要求が通らず興奮し他害行為や問題行動につながる場面が少なくなり、穏やかに過ごしてもらえるようになった。入所時は不穏な時は不穏時薬を1日3回服用していたが、現在は1日に0回、1回程度に減少している。

(2) 事例を通して効果的であったと思われる活動や体制、施策等

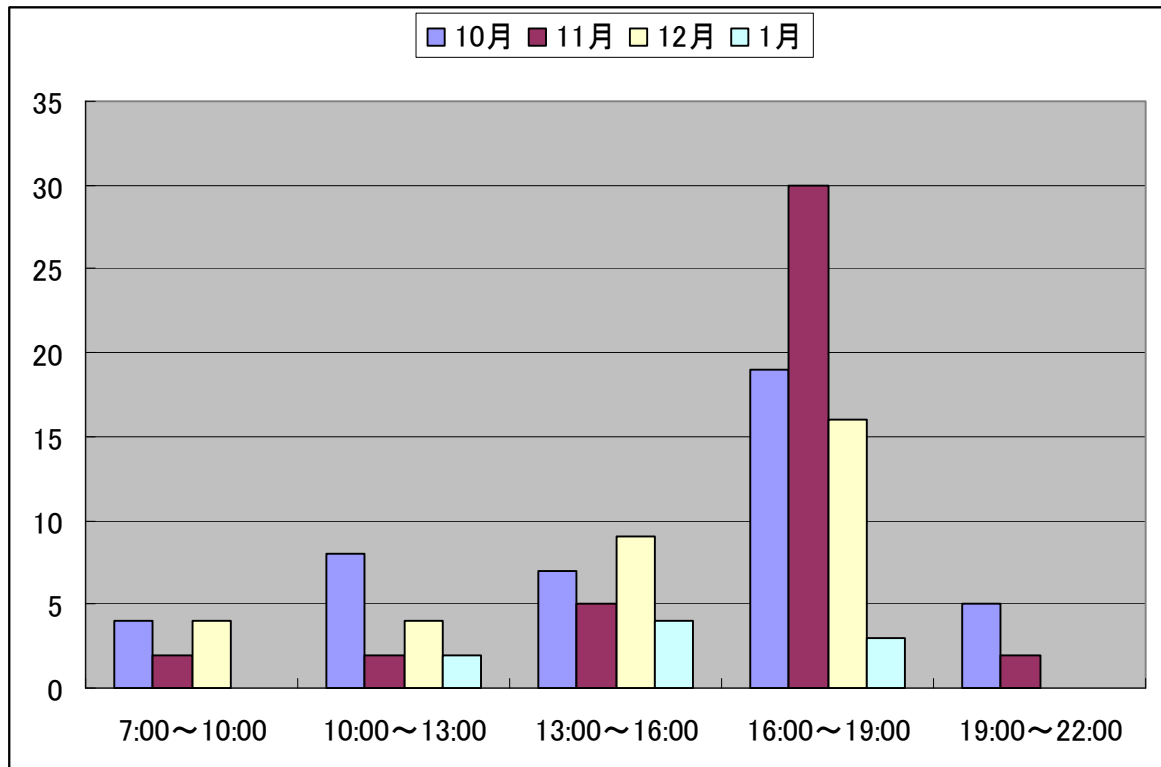
・ スキャタープロットで統計を取ることで不穏になる時間帯、原因を知ることが出来た。今回の事例ではTさんは視覚的に伝える方が理解しやすかった為、写真カードによるスケジュールは効果的であったと思う。

(3) 事例を通して、さらに必要とされる活動や体制、新たな施策等

・ ご本人とのコミュニケーションの見直し、偏食については継続して記録をとりより良い支援を考えながら取り組んでいきたい。今回の事例では見通しを持てるよう刺激をなくし周りの環境を整えることを優先した。これからは和泉の里の中での生活の幅を広げていけるようにご本人にとってよりよい生活をする為に必要なものは何かを考え、必要なものは取り入れながら支援し、和泉の里で充実した生活を送ることができるようになり、いずれはご家族と一緒に安心して暮らせるように支援していきたい。

参考資料：スキヤタープロット結果

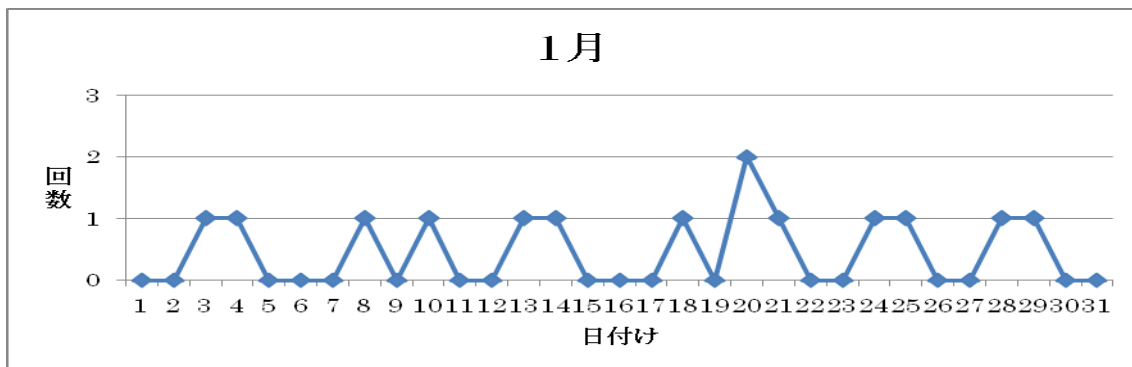
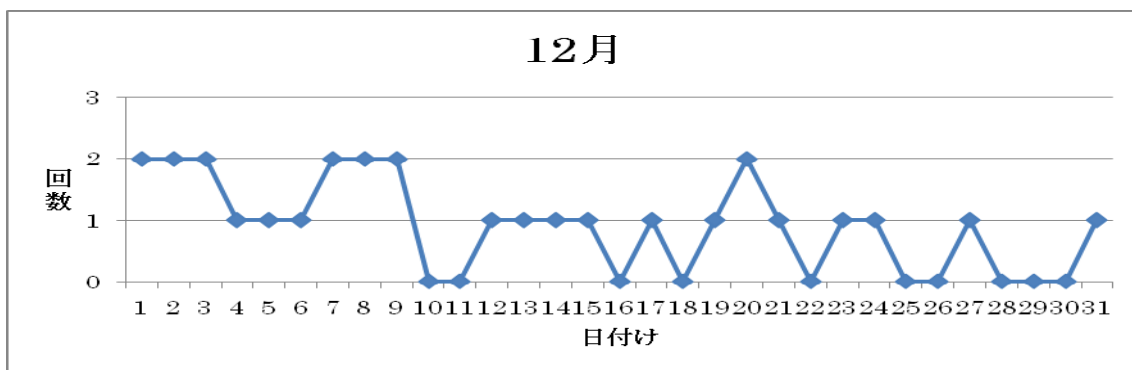
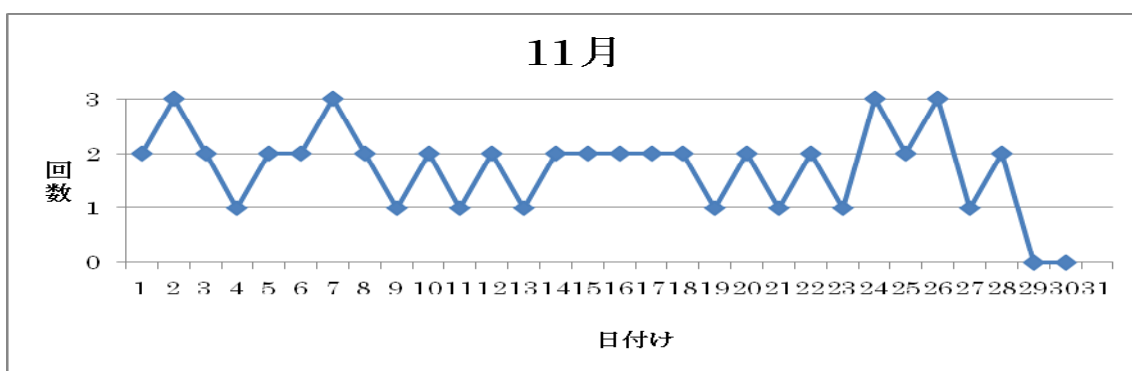
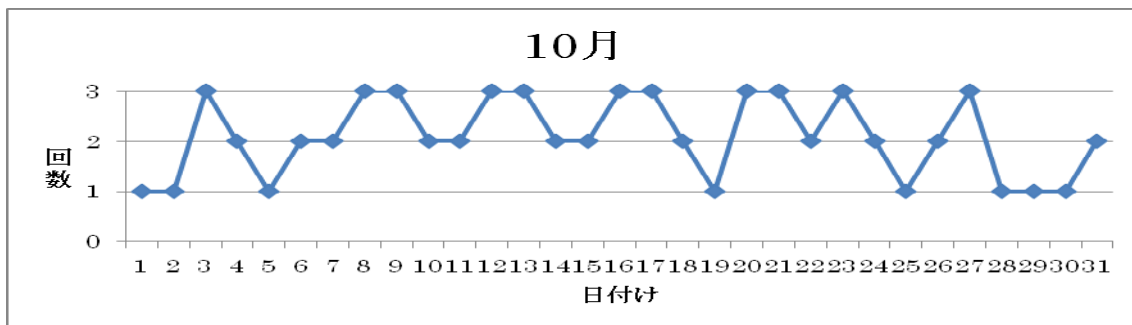
○激しい要求が始まり、不穩になる時間帯



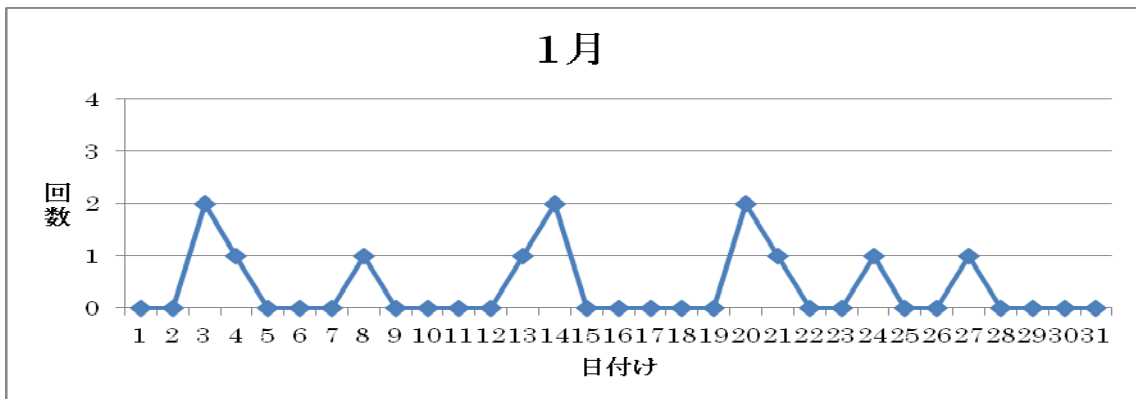
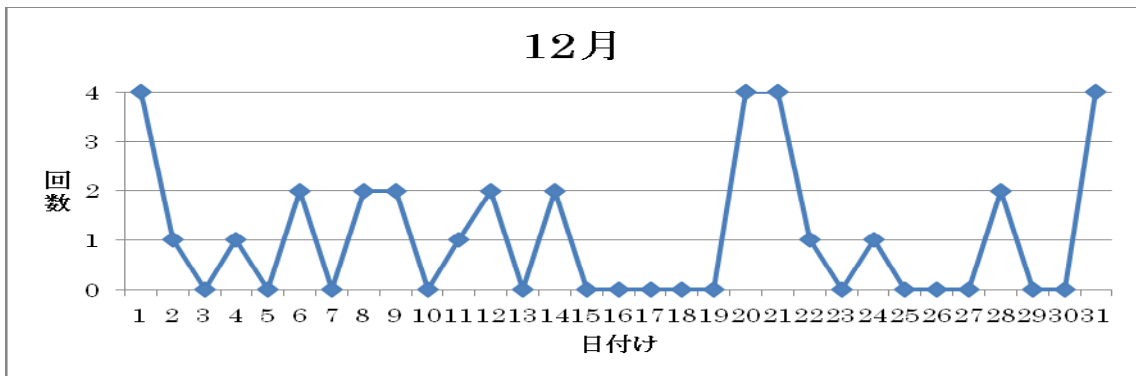
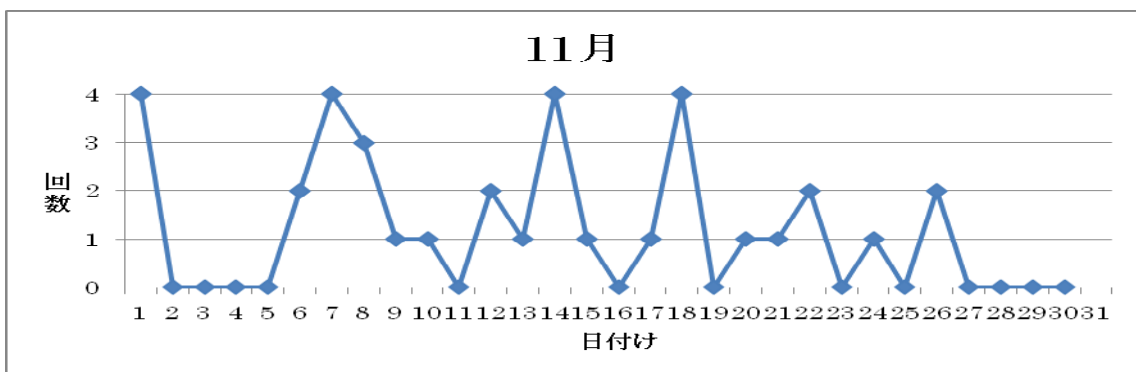
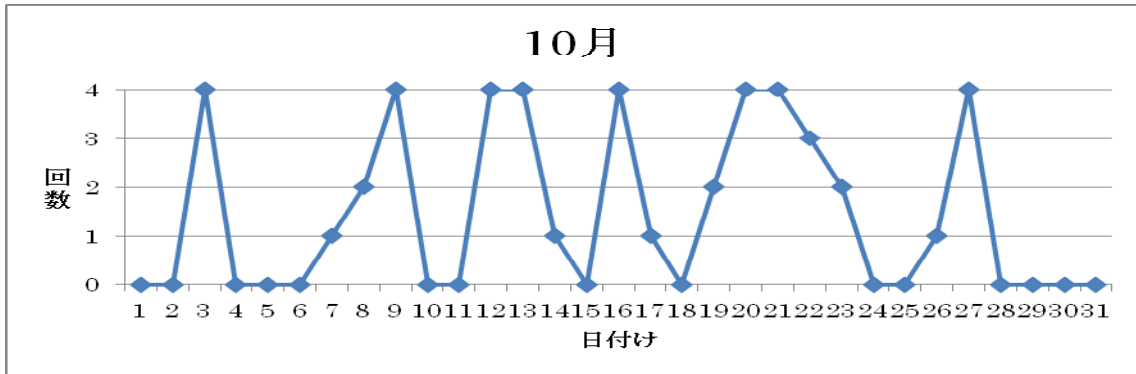
	10月	11月
7:00~10:00	4回	2回
10:00~13:00	8回	2回
13:00~16:00	7回	5回
16:00~19:00	19回	30回
19:00~22:00	5回	2回

	12月	1月
7:00~10:00	4回	0回
10:00~13:00	4回	2回
13:00~16:00	9回	4回
16:00~19:00	16回	3回
19:00~22:00	0回	0回

○不穩持薬服用回数



● 激しい要求、他害行為があった回数



◎写真カード、スケジュール

